

近年、人工知能の発達が著しくなっている。その例の一つに将棋がある。将棋ソフトがプロの棋士と互角に対局できるほどに発展しているのだ。

人工知能が発達することによって、将来的には人間と同じように仕事を行うことができるようになると言われている。そうになると、労働人口の減少を補うことができ、少子高齢化の日本を支える存在になるだろう。

一方で、人工知能の発達によって起こる問題もある。その一つに2045年問題がある。これは、2045年にはコンピュータの性能が人間の能力を超えるという予測だ。もしそうになると、今まで人間が行っていた仕事も人工知能だけで事足りるようになり、自分たちのできる仕事が次第に

限られていってしまう。つまり、失業者の割合が増加し、経済格差が拡大する原因になってしまうのである。

しかし、人工知能が発達したとしても人間にしか行うことが出来ないこともある。例えば、経験

## 論説 積極的な行動を 大切に

を積むことによつて身につく直感や人や場所に応じた対応がある。人工知能と共存していくためにも、一人ひとりが今の自分のできることは何かを考えて、行動することが大切になるはずだ。

これは今の私たちにも当てはまるところがある。自分のできることであつても面倒だと思つて行動に移さないことがあるだろう。避けていけば、今は何とかなるかも知れない。しかし、社会の一員として働く時に、今まで避けていたことをしなければならぬ機会も増えてくる。そこで、これまでのように避けてばかりいけば、面倒なことから逃げなかつた人との差が開いていく。例えば、英語が苦手で避けていけば、ビジネスなどで使えなくなり、今まで疎かにしなかつた人との差が開くだろう。さらに、人工知能によつて自分の仕事も奪われるかもしれない。自分の可能性を見失わないうえにも、今の自分のできることを考えて行動に移していくべきだ。